2021/1/15 @繊研新聞 2面

TSIHD第3四半期

「足元の業績は回復」

販管費抑制などに成果

TSIホールディングス（HD）の20年3～11月連結決算は売上高972億1900万円（22・7％減）、営業損益は82億7100万円の赤字（前年同期は19億4000万円の黒字）となった。仕入れやセールの抑制、固定費の圧縮など構造改革により「（新型コロナウイルス感染拡大の）第3波の影響が不透明だが、足元は回復しつつある」（上田谷真一社長）と、第3四半期の結果から減収でも増益になる新たなビジネスモデルの実現への手応えを示した。

（壁田知佳子）

第3四半期（20年9～11月）だけの業績で見ると売上高は6・9％減も、粗利益は8・3％減にとどめ、販売・管理費を9・5％削減したことで営業利益は4・4％増と増益に転じた。ブランド別では、「パーリーゲイツ」「ステューシー」などのスポーツやストリートブランドは好調を維持し、減収のブランドも仕入れやセールの抑制で粗利益の落ち込みを抑えた。最大規模の「ナノ・ユニバース」は粗利益率が4・2ポイント増と改善するなど、トップ10ブランドの大半が粗利益率を改善した。

デジタルへの投資は継続・強化する。中期的にデジタル・EC由来の売り上げ比率50％を目指す中で、21年3月には自社ECサイト「ミックスドットトウキョウ」を、店舗スタッフのコーディネート投稿に特化した新しいECモールに刷新する。

下地次期社長

「ファッションの力 信じ全社一丸で」

3月にTSIHDの社長に就く下地毅取締役は、「ファッションの力を信じている。ファッションは社会に貢献でき、皆を元気にする力がある」と述べ、「難しい状況だが、服屋としての肌感覚や知見を生かし、チーム一丸となって取り組んでいきたい。TSIをマーケットの中で最も幸せなアパレル会社にしたいと思っている。歴史が長く古いアパレルの体質があるが、高い価値の商品を適正量仕入れて販売する、新鮮な商品を新鮮なうちに届けることを今後のミッションとして全社で取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

上田谷社長は「大きな赤字を出し、期が変わるタイミングに、トップを含めて体制を一新するときだと思った」とトップ交代について話した。「下地次期社長の最大の強みはたたき上げの人間だということ。現場への落とし込みや判断のスピードが速い。古いレガシーを壊すには実行するチームも刷新する必要がある。構造改革した組織の中でリーダーを束ね、動いてもらいたい」と期待を語った。